

どこにもお米が売ってない、米は足りてる？ 政府は主食の安定供給に責任を持って

8月以降、全国各地で店頭からお米が消える異常事態が発生しています。政府は「受給はひっ迫していない」「9月になって新米が出回れば品薄感は解消される」と無責任な態度で対策を取っていません。

民間在庫は過去最低

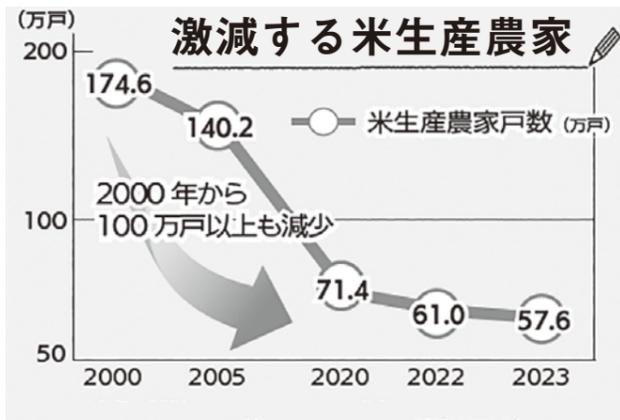
政府が発表した今年6月の米の民間在庫は過去最低の156万トンで、9月半ばになくなる水準です。農水省は確かに在庫は減ったが「需要量対比」22・2%はこれまでと大きな差はなく、需給はひっ迫していないと説明を繰り返しています。しかし新米を当てにするのは来年に食べるお米を先食いするだけで、問題の解決になりません。在庫が減少した理由として何点か上げられています。

①昨年から米需要が当初予測された681万トンから21万トン増の702万トンとなりました。(前年比+11万トン) 食品価格高騰の中で相対的に安価なお米の需要の増加。インバウンド増、コロナ影響が減ったことによる外食需要の増加。

②昨年のお米は日本各地で高温障害による影響で、精米歩留まりが悪くなり、同じ精米量を確保するために2%程度玄米を多く使用することになった。

米生産農家が減少

政府は、主食の需給と価格への責任を投げ捨て、市場に丸投げする一方で、生産者に生産調整を押し付けてきました。その結果、米農家の時給10円を放置し、離農が加速され、生産量が大きく減少しています。農家の平均年齢は68歳に達し、今後誰が米作りを担うかが本当に問われています。政府は規模拡大、農地の大区画化、スマート農業で農民のいない農村を目指しています。しかし日本の農地の4割は中山間地にあります。規模拡大にも限度があり、水路の維持管理などには必ず人の手が必要です。



※2000年～2020年は農業センサス 22年～農業構造動態調査を参考

民間流通における6月末在庫量等の推移

	20年	21年	22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年	2年	3年	4年	5年	6年 (速報値)
民間在庫	161	212	216	181	180	224	220	226	204	199	190	189	200	218	218	197	156
需要量との比率	18.8%	25.8%	26.5%	22.0%	22.1%	28.6%	28.0%	28.9%	26.6%	26.4%	25.7%	25.7%	28.0%	31.0%	31.0%	28.4%	22.2%

今年6月は過去最低在庫量に減少

来年の需要は29万トンも減少する？

農水省は毎年7月末に翌年1年間の需要、供給量を推計し報告します。米の消費は毎年8〜10万トン減少してきており、その減少トレンドをそのまま翌年の需要量に設定した結果、前年よりも29万トンも少ない673万トンとなりました。物価高騰により米需要が増えたことを無視した需要減予測は大変危険です。今年の収穫量しだいですが、来年の今頃はさらに逼迫する恐れもあります。政府は約100万トンの備蓄米があるから大丈夫だと説明します。しかしそれでも国民全員で消費した場合52日間しかありません。毎年の異常気象や世界各地の紛争が続くことで、日本の食料安全保障は薄氷の上でどうにか維持されています。

5/6年の主食用米等の受給実績(速報値)及び6/7年の主食用米等の需給見通し

		【今回(7月30日)】	
		(単位:万トン)	
令和5/6年	令和5年6月末民間在庫量	A	197
	令和5年産主食用米等生産量	B	661
	令和5/6年主食用米等供給量計 C=A+B		858
	令和5/6年主食用米等需要量	D	702
		E=C-D	156
		(単位:万トン)	
令和6/7年	令和6年6月末民間在庫量	E	156
	令和6年産主食用米等生産量	F	669
	令和6/7年主食用米等供給量計 G=E+F		825
	令和6/7年主食用米等需要量	H	673
		I=G-H	152

令和6年産の収穫量が669万トンであることが前提。少なければさらに来年はさらに逼迫する。

令和5/6年の需要量は702万トンだったが、令和6/7年の予測は29万トン減の予測。

5kg 3000円の米、お茶碗1杯45円

令和6年産の米は逼迫感から昨年と比較し価格が上昇しています。スーパーで新米5kg白米価格が3000円程度で販売されています。昨年よりは価格が高騰しています。お茶碗1杯で45円程度です。米以外にこれ以上経済的に国内で生産できる主食はありません。米農家が安定した収入を確保し生産することで再生産が担保されます。これまでの農業潰しの自民党政権をひっくり返すチャンスが迫っています。「政府は主食の安定に責任を持って」と訴える絶好のチャンスをもにしましょう。

農民連フラッシュ flash

福島県要請行動

8月29日福島県庁において原発事故被害・農業政策に関する要請を行い、能登地震、南海トラフへの対応から全国の原発を停止し、再エネ100%を目指すことを政府に提言することを要望しました。また、学校給食の無償化・有機化、担い手支援の拡充、農業高校教員の手当拡充について意見交換を行いました。



お米屋さんとの交流会

9月1日お米屋さんとの交流会を開催しました。お米屋さんから「令和6年産を迎えるにあたって」という内容で講演をいただき、産地から稲刈りを控えた農家の現状や産地の状況を報告し交流を深めました。米屋、消費者、農家が連帯して、米価と需給に責任を持つ米政策を求め続けることが大事であると再認識しました。



オンラインストア商品紹介

無添加あまざけ

福島県農民連の特別栽培米と国産米麴だけで作られた無添加の甘酒です。お米本来の甘味と旨味が麴の力によって引き出されたコクのある最高の味わいをお楽しみください。



購入はこちら



産直農協のインスタではあまざけちよいしレシピ公開中！福島県農民連産直農協で検索！